

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 18 年 8 月)	今回 (平成 18 年 11 月)	
住宅建設	増加	減少	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は増加している。

一般機械は、他地域工場から生産が移管されたコンベヤ、海外の電力会社向けのボイラやガスタービンが増加している。化学は、定期修理の反動などがあったポリプロピレンや化粧品、アクリル酸エステルなどが増加している。電気機械は、国内外の携帯電話やパソコン向けのリチウムイオン蓄電池、セパレート型エアコン、電気冷蔵庫が好調だったことから増加している。食料品・たばこは、清酒や前期に値上げ前の駆け込み需要が生じたたばこ、菓子・調理品などが減少している。電子部品・デバイス、国内外の携帯電話向けのアクティブ型液晶素子(中・小型)や固定コンデンサ、パソコン向けのセラミックコンデンサ、パッシブ型液晶素子が好調であったことから増加しており、7四半期連続の増加となっている。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	15.0	17.6	0.7	0.6	7.8
化学	12.8	3.3	1.0	2.3	8.0
電気機械	10.1	4.3	6.9	5.1	6.9
食料品・たばこ	8.1	0.6	9.0	10.1	2.5
電子部品・デバイス	7.9	2.5	10.1	10.2	2.9
鉱工業	100.0	2.9	1.4	1.3	1.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

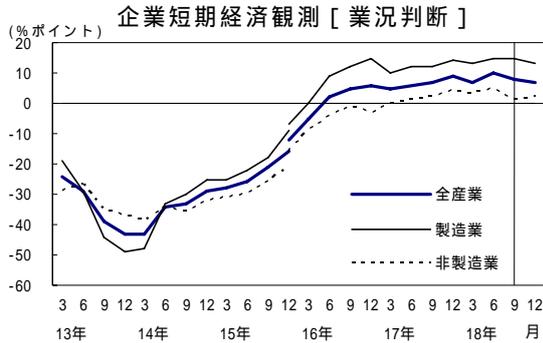
2. 7~9月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

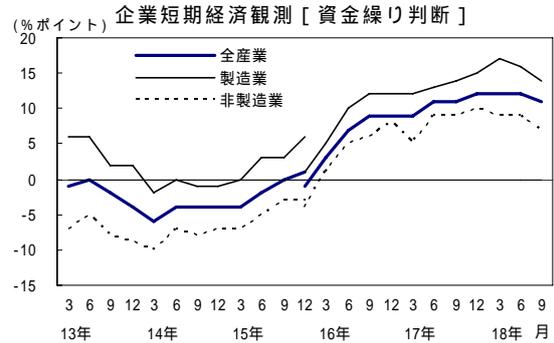
2. 平成18年9月の近畿は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

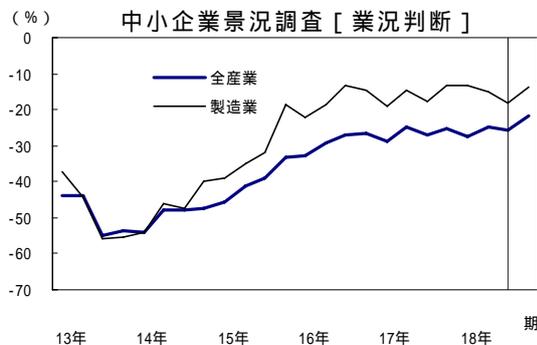
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年12月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

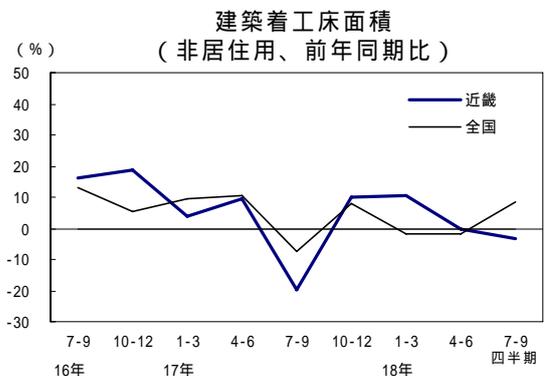
「開発業者による、建売用地や分譲マンション用地の取得意欲は依然おう盛であるものの、なかなか販売価格が上がらない状況である(不動産業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	8.3	12.2(0.4)
製造業	9.5	17.9(0.1)
非製造業	7.3	7.6(0.6)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している

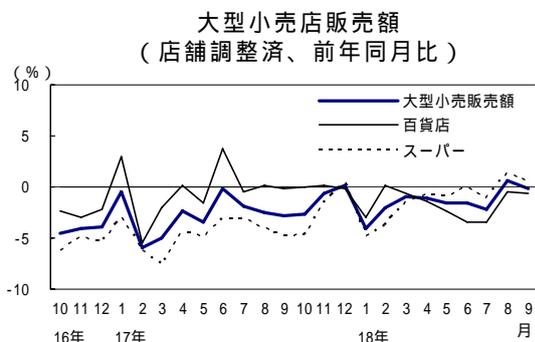
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、前半はクリアランスセールが好調に推移したものの、梅雨明けが遅かったことなどから衣料品が振るわず、また、総菜などの食料品なども振るわず、前年を下回った。8月は、青果物や洋菓子などの食料品や化粧品などが好調だったものの、衣料品では秋物全般が振るわず、前年を下回った。9月は、コート、ワンピースなどの婦人服やスーツ、ブルゾンなどの紳士服、また、ロングブーツなどがトレンド商品を中心に身の回り品の他、生鮮食品が好調だったものの、前年に愛知万博関連のキャラクター商品がヒットしたことの反動もあり、前年を下回った。また、四半期を通して、宝飾・貴金属の不振がみられる。なお、近畿百貨店協会によると、大阪地区の10月の売上高は、前年同月比で3.8%減となっている。

スーパーは、衣料品が振るわなかったものの、旅行関連の商品が好調だったこと、主力の飲食料品で相場高により青果物の単価が上昇したことや酒類が好調だったことから、前年比は9年半分にプラスとなっている。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

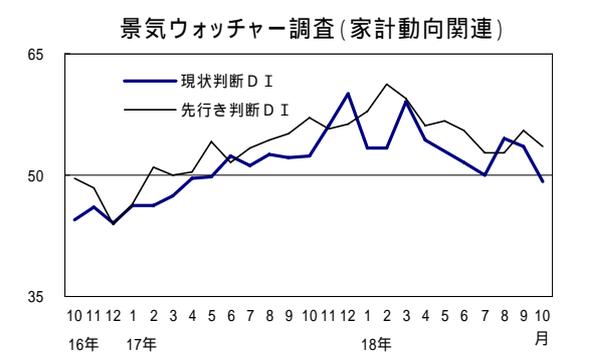
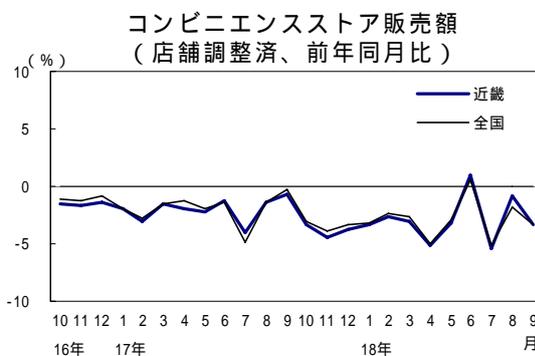
「月前半は気温が低かった影響で、衣料品や住居関連商品などの季節商材が好調であったが、後半に入って気温が例年よりも高かったことで、季節商材が不調となった(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	18年10-12月	18年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	1.0	2.5	1.4	0.7
百貨店	0.0	1.3	2.4	1.7
スーパー	1.8	3.4	0.6	0.2
コンビニ	3.8	3.0	2.4	3.2
景気ウォッチャー	56.2	55.3	53.0	52.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲と給与が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。



### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。

